

武庫川女大	栗屋	秋子
三重大教育	○伊藤	令子
武庫川女大	林	泰子

1. 衣料等のサイズ設定に必要な基礎資料を得ることを目的として、小・中学生の上肢・下肢の長径の年令的变化について二・三の考察を試みた。

2. 対象は、昭和41年7月に計測した大阪市内在住の男女小・中学生(6~11才)892人で、研究項目は、計算値3項目(身長・膝関節高・足長)、計算値6項目(上肢長・上腕長・前腕長・手長・下肢長・大腿長)、並びに身長に対する示数値8項目(比上肢長・比上腕長・比前腕長・比手長・比下肢長・比大腿長・比膝関節高・比足長)の合計17項目である。

3. 主な成果はつぎのようである。

a 絶対値各項目は、男子は14才、女子は13才まで直線的に増加する。11才では手長・膝関節高・足長以外の項目で女子が優れており、14才では全項目に亘り男子が優れ性差は顕著になる。

b 身長に対する比については、上肢長・下肢長は13才頃まで漸増し、手長・足長は加令とともに漸減する。性差は、上肢長径は一般に男子が女子をやや上まわり、下肢長径は大腿長は13才まで女子が優れ、他の項目では一般に男子が優れ差は高年令で顕著になる。従って、14才では女子は男子より上肢・下肢が短かく、なかでも手長・足長・膝関節高が一層みじかい身体比例となる。

c 男女とも上肢では手長が最も早く成人値に達し、次いで前腕長・上腕長の順である。下肢では足長・膝関節高・大腿長の順である。